

千葉市美術館企画展「没後200年 亜欧堂田善 江戸の洋風画家・創造の軌跡」を開催します ～江戸時代に銅版画を大成した洋風画家、首都圏で17年ぶりの回顧展～

千葉市美術館では、企画展「没後200年 ^{あおうどうでんぜん} 亜欧堂田善 江戸の洋風画家・創造の軌跡」を以下のとおり開催しますので、お知らせします。

本展は、江戸時代後期に活躍した洋風画家・亜欧堂田善の銅版画や油彩画を網羅的に紹介し、まだ謎の多い画業を検証するものです。

開催に先立ちまして、1月12日（木）15：00から記者の皆さまへの説明会を実施しますので、ぜひ取材にお越しくください。

- 1 会期 令和5年1月13日（金）～2月26日（日）
休館日 2月6日（月）
※休室日 1月30日（月）
- 2 会場 千葉市美術館（中央区中央3-10-8）
- 3 主催 千葉市美術館、東京新聞
- 4 ポイント ◆「日本に生まれし阿蘭陀人」亜欧堂田善の現存する作品をほぼ網羅、約250点の作品・資料で謎に包まれた素顔にせまる。

亜欧堂田善は、その作品を見た白河藩主松平定信をして「亜（アジア）欧（ヨーロッパ）両大陸を眼前に見る心地す」と称された江戸時代の洋風画家です。本展では田善の代表作であり、日本の近世銅版画で初めて重要文化財となった『銅版画東都名所図』^{どうほんがとうとめいしよず}「銅版画見本帖」^{どうほんがみほんじょう}のほか、江戸時代最大級の油彩画である《浅間山図屏風》^{あきまやまざびょうぶ}など、現在存在が確認されている銅版画、^{にくひつが}肉筆画をほぼ網羅し、重要文化財15点、重要美術品1点を含む200点に加え、同時代の絵師や弟子たちの作品約50点もあわせて展示し、いまだ謎に包まれている田善の全貌に迫る過去最大の回顧展です。

◆超絶技巧の銅版画で江戸の風景を活写。

江戸時代に腐食銅版画技術を大成した亜欧堂田善の卓越した技がうかがえるのが『銅版画東都名所図』です。11.9×17.3cmと小さな作品ですが、1cm四方に80本の線をかけあわせるという超絶技巧が用いられています。このような当時最高峰の技術によって、大ベストセラーとなった医学入門書の挿絵や、幕府初の銅版画による世界地図などを手掛けました。

◆再発見された作品のほか、下絵や銅版画のもととなった西洋銅版画も展示し「創造の軌跡」を追う。

近年再発見され74年ぶりに亜欧堂田善の回顧展に出品される作品や、近年田善作とされた作品、30年ぶりに公開される下絵など、本展でしか展示できない作品も多数出品されるほか、銅版画技法を取得する上で参考にした西洋銅版画など数多くの資料を通して、亜欧堂田善がいかにして洋風画家となったのかを丁寧に紹介します。

- 5 観覧料 一般 1,200円(960円)、大学生 700円(560円)
※ 小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。
※ ()内は前売券、市内在住65歳以上の方の料金。
※ 前売券は、ローソンチケット(Lコード:32618)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて1月12日まで販売(1月13日以降は当日券販売)。
※ ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18時以降は観覧料半額
- 6 関連イベント 展覧会に関連した講演会やワークショップを開催。
- 7 その他 本展のチラシ別添

「没後200年 亜欧堂田善 江戸の洋風画家・創造の軌跡」
披露説明会 開催概要

日時 1月12日(木) 15:00から
場所 千葉市美術館 8階展示室
内容 展覧会や主な展示作品の見所について担当学芸員からご説明いたします。

<本件に関するお問い合わせ先> 千葉市美術館 担当学芸員 松岡まり江
広報担当 磯野 愛
〒260-0013 中央区中央3-10-8
電話 043-221-2311
FAX 043-221-2316
E-Mail isono@ccma-net.jp